柿生文化

柿生郷土史料館　情報・研究誌
住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1
柿生中学校内
電話：044-988-0004（柿生中学校）
http://www.kakio-kyodo.com
第76号

失われゆく記憶遺産～その１

「神社」は郷土のルーツを知る語り部

◆明治の神社合祀政策が村の記憶を消し去った◆

普段なにげなく見過ごしている近所の神社は、郷土の歴史を知る大切な生き証人であるということを、皆さんはご存知でしょうか。

現在、川崎市内には神社が 99 社あります（各家の屋敷稲荷などは数に入れていません）。そのうち、麻生区内には 13 社あります。

月読神社

江戸時代の「新編武蔵風土記稿」に登場する神社の数を調べてみますと、川崎市内の地域には 385 社、その中で麻生区の地域には 49 社もありました。

現在と江戸時代を比較しますと、川崎市内で消滅したものや他の神社に合祀（ごうし＝ある神社を廃し、祭神を他の神社に合わせ祀ること）された神社が 286 社あり、存続した神社の割合はわずか 26％という数字になります。麻生区だけで見ても、消滅あるいは合祀された神社数は 37 社で、存続した神社の割合はやはり 26％となります。

このきっかけとなったのが明治39年４月に原敬内務大臣の下で出された「神社合祀政策」でした。当時、神社は基本的に国家が管理する体制でしたので、政府の経済的な側面があったのでしょうが、一村に対して一社を基本にしました。つまり多くの神社を、存続する神社に合祀するか廃社にするという内容のものでした。

したがって、それまで全国に 190,265 社あった神社が明治 42 年には、147,270 社に減少してしまいます。全部で約 43,000 社が無くなってしまったことになります。あろうことか、残されることになり合祀を受けた神社を「稲八金天神社（いなはちこんてんじんじゃ）」などという奇妙な社名にされたというような事例も多数ありました。これは、最も多く廃絶された「稲荷神社」「八幡宮」「金刀比羅神社」「天満宮」の頭文字を集めて命名されたものです。このような郷土の想いを踏みにじるような政府のやり方に、明治～昭和期の民俗学者南方熊楠（みなかたくまぐす）は『これらの合祀政策は、無識・無学な官公吏による我利我欲を計った“神狩り”』と痛烈に批判しました。もっとも現在ではこのような神社名は一つも残っていないようです。

今日では、宅地開発などで消滅した神社や祠（ほこら＝神様を祀る小さなやしろ）もずいぶんあると思われます。これらの神社や祠等は、意味や歴史があってその場所に建てられたもので、元々あった場所にあるからこそ意味があるはずなのです。“神社は郷土のルーツを知る語り部”と表題に書いたのはそのためなのです。

皆さん方がお住まいの地域に祀られている神社を、一度じっくりと調べてみてください。神社の境内に入りますと掲示板があり、そこには神社の名称・祭神・創建の由来や年代などが書かれています。しかし、神社にはそれだけではありません。もっともっと神社にまつわる知らないことがたくさん隠されているかもしれません。

上麻生の「月読神社（つきよみじんじゃ）」は、麻生郷の有力者である小島佐渡守が天文 3 年（1534 年＝室町時代）、戦乱の世から民を救おうと祈願し、伊勢の皇大神宮別宮の月読宮より月読尊（つきよみのみこと）の霊を勧請（かんじょう＝神の分霊をお迎えすること）して創建されました。

月読神社に合祀されている神々

ならば「月読尊」とはどんな神様なのでしょう。昔、暦は種蒔きや収穫の時期を教えてくれる、農業にとってとても大切なものでした。“月読”は、「月の動きで農事を読む」という意味で、農業の守護神的な意味をもった神様です。きっと小島佐渡守が領地・領民の平和のために五穀豊穣を祈るという背景があったのでしょう。一方、月読神社には、大正 7 年に上麻生の熊野神社、下麻生の日枝神社、山口の白山神社が合祀されました。現在、境内にはこれらの神様をお祀りした祠が大切に安置されています。本来ならばそれぞれの地域に祀られ、何かの意味を持って地域の人々から厚い信仰を集めていた神社が、別の場所に安置されているということは、当時の村の人々にとってはつらい思いがあったのではないかと考えられます。次回は合祀に関する事柄をもう少し掘り下げてみたいと思います。

参考資料：「史潮」（1981.9 神社合祀の実態）　（文：板倉）

シリーズ
「麻生の歴史を探る」 第46話

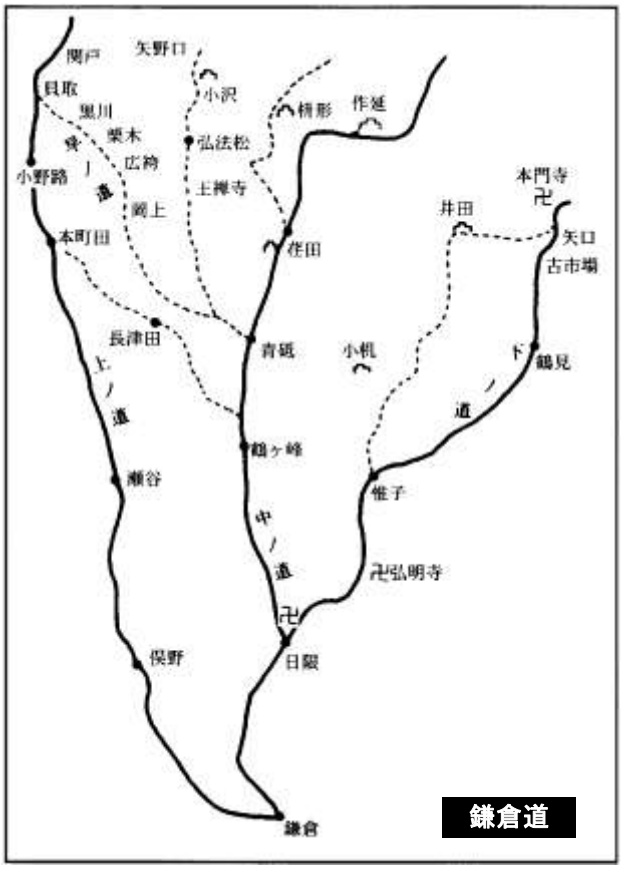
麻生の古道（7）　～歴史の証人～

小島　一也（柿生郷土史料館相談役）

麻生周辺には鎌倉道に関わる伝承が多く、稿を重ねてしまいました。その伝承の年代を追ってみますと、町田市大蔵の悪源太義平（頼朝の兄）の大蔵鐘の伝承が保延５年（1139）。上麻生や栗木、亀井の伝承が平治元年（1159）の頃。後白河法皇の笹子姫の逸話は治承 2 年（1178）と伝承され、頼朝の旗上げは治承 4 年、幕府が開かれ“いざ鎌倉”の鎌倉街道が創設されたのが建久 2 年（1191）頃といわれますから、鎌倉街道開設以前からこの地方には鎌倉に関わる道の原型がすでにあったということになります。

この地方の鎌倉道が大きな戦に巻き込まれるのは、伝承によると開設 140 年余を経た元弘 3 年（1333）新田義貞の鎌倉攻めで、続いて正平 7 年（1352）足利尊氏、直義兄弟の鎌倉を巡る戦に利用されますが、最も戦塵を受けるのは応永年間（1416 前後）の鎌倉公方・関東管領争いの上杉家争乱で、さらにその争いに乗じた北条早雲（後北条氏）の関東進出（1459）はこの地方を戦場化し、新しい軍道を作っています。

現在、麻生の古道は相次ぐ都市開発でその跡をなくしてしまいますが、その反面、開発に伴う文化財調査はこれらの道の存在を明らかにしています。また幸いなことにこの地方には、幕末から明治 14 年にわたり作成された「フランス式彩色地図」があり、それには都筑丘陵特有の谷戸、集落、尾根が青色の等高線で示され、江戸道、そして古道と思われる道筋が記入され、伝承とあわせ麻生周辺の古道を探る上での参考になっています。

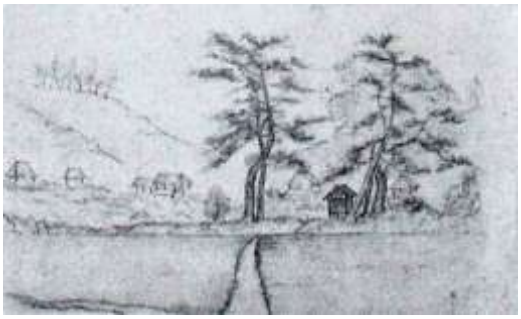


原形を残す鎌倉道　－町田市小山田－

この地図で見る麻生の古道の特徴は、部落や目的地を最短距離で結ぶためか尾根道が多いこと、そしてそこには寺社や景勝地（森）があり、彩色地図には尾根に“松”“楢”などの目標樹が示されていることです。軍略的にも尾根道は比較的坂が少なく、地盤が堅固で騎馬の通行が安全だったこと、高所の通行が戦略上重要であったことなどから尾根道が利用されました。軍馬は 35 度以上の坂道の登坂は困難だったとも言われます。

古代、武蔵国府は府中、都筑郡衛は荏田にあったと言われ、そこに集まる祖・庸・調を運ぶ道もあったでしょう。そして宗教文化は王禅寺などの社寺を造営し、庶民が詣でる信仰の道もあったと思います。前稿で黒川はるひ野の“多摩よこやまの道”を記しましたが、同じ防人の“足柄の峰延ふ雲”を詠んだ歌は、その情景から麻生区内から詠まれたものと思われます。それがどこであるかはわかりませんが、わかっているのはこれらの祖庸調、参詣路、防人の道は、武蔵野や相模野とは異なる多摩丘陵の趣のある尾根を、遠く富士・丹沢を望み歩んだことで、そのことは麻生の古道独特の歴史を作り上げています。

現在この麻生周辺に幽かに残る古道の跡は、それがいつの時代のものかはっきりしません。道はその頃そこに住む人の生活、その時代の社会を表したもので、その積み重ねが現在に至っているのでしょうが、その意味で“道は時代の証人”です。麻生の古道は、古代租庸調の道から、防人の道。道は鎌倉に通ずの鎌倉道。室町時代、鎌倉公方の存在はその道を多様化させ、戦国時代における北条早雲の登場は人馬の流れを小田原に向け、そして江戸時代、これらの道筋は、江戸道（津久井往還）、神奈川道（日野往還）などの産業隆盛道となりますが、その中にあって、私どもの祖先の暮らした里道はその歴史を作っていました。


下麻生村岐路　－フランス式彩色地図－

参考資料：「川崎市史」「川崎市域の中世古道（中西望介）」
「明治前期測量フランス式彩色地図」「柿生ふるさとの歩み」

シリーズ　黒船来航

開国秘話（12）

小林　基男（柿生郷土史料館専門委員）

◆ペリーの日本観◆

ここで、ペリーはどのように日本をみていたのか、彼の日本観を紹介させていただきます。横浜での条約調印後の4月10日、ペリーは60歳の誕生日を迎えました。日本側と交換した条約正文を、急いで本国に届けたいと考えた彼は、帆船のサラトガ号を、ハワイ経由で帰国させました。

その後ペリーは、旗艦のポーハタン号に乗って、開港場に決まった下田と函館の視察に向かいました。ペリーの日本観は、江戸湾での交渉や見物人、そして開港場での滞在を通じて形成されました。彼は記します。

（1）「下田は文明の進んだ町であることが分かる。町を造った人々の衛生や健康面への配慮は、わが国が誇りとする進歩を、はるかに上回っていた。」実際にペリーが実地見分した都市は、下田と函館のみです。この2つの都市について、共に戸数を約1千戸、住民を約7千人とペリーは見積もっています。この程度の都市でも、当時の新興国アメリカにとっては、大きな都市に分類されたのです。人口 130 万人を数え、当時世界最大の都市だった江戸の街並みと人波を、もしペリーが見たとしたら、その繁盛ぶりに度肝を抜かれたことでしょう。その感想を書かせてみたかった気もします。

愛宕山からみた江戸の街並み（1862～63年　撮影フェリーチェ・ベアト）横浜開港資料館蔵

（2）「実際的・機械的技術において、日本人は非常に巧緻である。日本人がひとたび文明世界の過去・現在の技能を有したならば、強力なライバルとして、機械工業の成功を目指す競争に加わるに違いない。」この感想は100余年を経て、現実のものになりました。ペリーは、慧眼の持ち主でもあったのです。

（3）「読み書きが普及しており、見聞を得ることに熱心である。彼らは、自国についてばかりでなく、他国の地理や物質的進歩、当代の歴史についても何らかの知識を持っており、我々は多くの質問を受けた。長崎のオランダ人から得た彼らの知識は、実物を見たこともない鉄道や電信、銅版写真、汽船、新型大砲などにまで及んでおり、それについて語っていた。またヨーロッパの戦争、我が国の独立やフランス革命、そしてワシントンやボナパルト（ナポレオンを指す）についても、彼らは的確に語ることが出来た。」

（4）「若い女性は身綺麗で美しく、立ち居振る舞いが大変生き生きしていて、しかも自発的だった。それは彼女たちが、比較的高い尊敬をうけているために生じる、品位の自覚から来るものであると思われる。」当時の新興国アメリカの軍人であり、教養人でもあったペリーの目には、当時の日本はこのように映っていたのです。偏見のない眼で見た、当時の女性観など、なるほどと思わせられる点が多いことに、私も驚きました。この後ペリーは、本国に帰って引退、1858年3月に63歳で亡くなっています。

◆条約締結と幕府の態度◆

ここまで日米和親条約の締結過程を追ってきました。そこでは、幕府が19世紀中ごろの国際政治の現実を見通し、「避戦」の立場を貫きながら、早くに開国の意志を固めて、積極外交に転じようとしていたことも指摘しました。

こうした背景には、1840～42 年にかけてのアヘン戦争と中国の敗北という現実がありました。古来中国は、日本にとって仰ぎ見る大国でした。その日本にとって師とも言うべき、大国中国のあっけない敗北は、徳川幕府にとっても大変な衝撃でした。

そこから幕府は、ヨーロッパで唯一の友好国であったオランダを通じて、西洋世界の最新情報の収集に努めました。その結果、西欧諸国と戦って勝ち目のないことを認識し、1630 年代からの「鎖国」体制を解き、開国する決意を密かに固めていたのです。

ペリー艦隊や、ロシアのプチャーチン艦隊の来航はそんな折でした。米国が、議会の許可と決議なしに、砲艦外交に踏み切れないことまで、知っていたか否かはともかく、米国が武力を先に立てた問答無用の態度をとらないことは突き止めており、最初の交渉相手としては好ましい国であるとの認識を、オランダの協力を得ながら持つに至っていたのです。

こうして、戦争によらない、双方が論議を尽した交渉の結果として、日米和親条約は結ばれました。ここに幕府は220年に及ぶ鎖国体制を公式に解いたのです。　（続）

柿生郷土史料館開館日のご案内

◎開館日：奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日
9月　7・14・21・28日（毎日曜日）　**10月**　4・11・18・25日（毎土曜日）
◎開館時間：午前10時～午後3時

柿生郷土史料館９月以降の催物ご案内（入場無料）

第7回　実物のミニ歴史資料展　明治６年　太陽暦に替わった日

展示品：「明治５年　太陰暦」「明治６年　太陽暦」
「江戸期　伊勢暦」「改暦辨（福沢諭吉著）」
他
期間：4月26日（土）～9月14日（日）
（開館日：日曜日　９月 14 日が最終日です）
内容：明治5年12月３日を明治6年1月１日とした
太陽暦への改暦の意味を考えます。

明治５年の太陰暦（左）と同６年の太陽暦案内書「改暦辨」

第48回　カルチャーセミナー　アフリカ　スーダン共和国の今日を知る

◆今年７月に帰国された若林氏に最新のスーダン情報を聞く
◆混迷のアフリカ諸国の姿
講師：若林恵子氏（スーダンの平和を守る会を支援する会現地責任者）
日時：９月２１日（日）　１３時３０分～１５時３０分
会場：柿生郷土史料館特別展示室
内容：世界情勢の中のアフリカ諸国の課題を考える

第8回　実物のミニ歴史資料展　本居宣長と国学の世界

展示品：「古事記伝（写本）」
「直毘霊（なおびのみたま）」
「詞の玉緒（ことばのたまを）」
「馭戎概言（ぎょじゅうがいげん・からおさめのうれたみごと）」
「祝詞考（のりとこう）　賀茂真淵著」
他
期　間：10月4日（土）～12月13日（土）
（開館日：10月および12月は土曜日、11月は日曜日）
内　容：「国学」とは、江戸時代中頃から起こり、古来からの日本独自の文化を探求し、日本本来の姿を探求しようとした学問です。
例えば「古事記」「万葉集」などの日本の古典についての深い研究がなされ、やがて、明治維新の原動力ともなりました。
今回の展示資料は、本居宣長の作品を中心として、賀茂真淵・平田篤胤などの作品も集めました。これらの作品をもとに「国学」という学問を考えてみたいと思います。

展示品ミニ説明会：10月25日（土）午前10時30分より柿生郷土史料館にて
実物のミニ歴史資料についてご案内いたします。